

- (C) 打楽器
 (十六) シムバル 2 (十七) カスタネット 2
 (十八) 大太鼓 2 (十九) 小太鼓 2

- (D) 附屬品
 譜面臺 十五脚 指揮杖 二振
 樂譜歌 若干

教育部出版部報告

教育部

本年度に於ける教育部の活動としては、労働學校及短期講座、研究会等であるが、労働學校中、神奈川労働學校は本年四月、五月、六月の三ヶ月間左記の講師及科目に依つて開校された。

政治學 牧内正男
 社會運動史 重廣虎雄
 マルクス經濟學 石川準十郎
 學生 五十二名、卒業生 二十四名
 日本労働學校は、労働會館改築中の爲、本年は休校の止むなきに至つたが、今後は、日本労働會館の經營として開校することになつて居る。
 労働講座、及研究会は、各地、各組合に於て盛に開講された。主たる講師は左の如し

出版部

赤松克廣、山崎宏、松永義雄、馬場恒吉、赤松明子、赤松常子、松下芳男、山田秀雄、石川準十郎、木村盛、重廣虎雄、西本喬、高戸義太郎、齋藤健一
 等の諸氏である。本年度に於て、特殊の教育事業としては、製網労働組合川崎支部に於て、操短の結果生じた長時間を毎週一回の講演會に宛て、工場食堂に於て、既に十數回開催された事である。毎週一回(土曜日)に定期的に連續して數百人の聴講生を持つ講演會は、これを以て最初とする。其講演内容も、廣く一般の常識教育に資するものとした。尚、今後に於ては、教育運動は日本労働會館と協力して、一大飛躍的活動を行ひ得るものとして、深く期して居る次第である。

出版部は、前年度より直接、出版物を出すことを始め、

日本民衆新聞社に移譲することになつた。
 關係定期出版物としては、「日本民衆新聞」及「労働經濟」である。日本民衆新聞は主として我等の宣傳新聞たらしむる目的をもつものであり、前年、週刊迄發展せしめたのであるが、現在は經營上月刊として居る。一刻も早く旬刊、週刊たらしめねばならぬ。

「労働經濟」は、鈴木文治氏の經營するところであつたが都合上廢刊に至つたので、我同盟の獨立會計に依つてこれが発行を持續することに決した。幸ひ、各組合員諸君の熱烈なる御支持に依つて、讀者を増加し、鞏固たる經濟的基礎を持つに至つたから、經濟智識の普及、經濟現象の實證的批判、我等の指導方針を積極的に主張するところの言論機關として、その本領を發揮するであらう。

日本民衆新聞社出版物

書名	著者	定價	送料
労働組合の話	齋藤健一	一〇、〇二	
消費組合の話	安部磯雄	一〇	同
メーデー	關東同盟會編	二〇	同
東京鐵工組合大崎第六支部規約集	同支部編	一〇	同

社會主義の政治	英國労働黨編 山崎一雄譯	一〇	同
民衆政治を日ざして	出版部編	一〇	同
産兒制限の話	安部磯雄	一〇	同
労働歌集	關東同盟會編	一〇	同
(野田宇議の眞因及現狀 (昭和三年、四月發行))	同	一〇	同
共産黨の分裂政策	シトリン著 山崎一雄譯	一〇	同
製網労働組合創立事情	三木治郎	一〇	同
労働組合論	松岡駒吉	一〇	同

日本民衆新聞、労働經濟

編輯關係者氏名

生野嘉三郎、山崎廣、重廣虎雄、西本喬、高戸義太郎、齋藤健一、木村盛、松永義雄、松下芳男、石川準十郎、山崎一雄、山田秀雄

加盟組合出版物

通信労働新聞 月刊 運友同志會
 製網労働時報 不定期 製網労働組合